

共生・協働の地域社会づくり

住民ニーズに応える地域づくりを実践

上西校区は、西之表市街地の北部に位置する農村地域です。平成5年に約730人だった人口は今では約550人に減少し、小学生もこの20年間でほぼ半減するなど、少子高齢化(高齢化率45・5%)と過疎化が進行しています。

このような状況を踏まえ、校区では、住民一人一人のニーズに真摯に応える地域づくりを実践してきました。

その一つが、放課後に児童を預かる「上西すこやかクラブ」です。子どもたちの放課後の過ごし方を心配する保護者の声を受け、2年におよぶ協議と準備を経て、平成20年に西之表市で初めて校区が運営する放課後児童クラブとして誕生しました。現在、利用者は上西小学校の全児童22人。8人の指導員は全員60〜80代のボランティアです。異年齢の子どもたちが一緒に遊び、学べる、安心・安全な居場所ができ、保護者は安心して仕事ができるようになり、子育ての負担も軽減されました。子どもたちからの信頼や保護者の感謝の声に指導員は大きなやりがいを感じています。



紙芝居に聞き入る上西すこやかクラブの子どもたち

市内で放課後児童クラブがあるのはこの校区だけであることから、校区外から転入した子育て中の世帯もあります。

また、小規模農家の販路確保のため、農作物や花、郷土菓子などを持ち寄り軽トラの荷台を使って販売する「軽トラ市」を実施しています。回を重ねるたびに校区内外からの出店者、来客者が増加し、高齢農家の生産意欲の向上と生きがいづくりにつながるとともに、校区内外の住民の交流の場として定着しました。

このほか、県無形民俗文化財に指定されている地区の伝統行事「横山盆踊り」を継承するため、校区の伝統文化保存会のメンバーが中心となって、地元の小中学生に指導・伝承しています。

このような取り組みを中心となって支えてきた塩崎校区長は、「新しい活動を始める時は、住民から不安の声も聞かれますが、話し合いと実践を積み重ねることによって理解を得てきました。住民自ら必要性を感じ、納得して参加することが大切。最初は小さな活動の輪も徐々に



生産者が売り手となる軽トラ市

代表者からひとこと



上西校区校区長 塩崎 義政さん
 住民の語り合いを大切にしています。世代を超えた交流が、一人一人の居場所と出番づくりにつながっています。

に大きくなっていきばいい。そうでないと、地域活性化の取り組みは長続きしません」「子どもたちに島の行事や文化を伝えたい。その思い出があると、島を出ても、また戻ってきてくれます」と、熱い思いを語ります。

今後の目標は、校区の一番の場所である「伊勢神社」を「人が集い、交流する場所」として整備することです。

上西校区は、人のつながりを大切にしたい地域社会を、これからも住民の手で築いていきます。



祖霊供養のため受け継がれる横山盆踊り

共生・協働の地域社会づくりやNPO法人に関するお問い合わせ先

◎共生・協働推進課(県庁9階)

TEL 099(286)2241

◎共生・協働センター(かごしま県民交流センター内)

TEL 099(221)6613

関連情報は、県ホームページの「共生・協働(NPO・ボランティア)」にも掲載しています。